【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年10月6日(2016.10.6)

【公表番号】特表2016-504120(P2016-504120A)
【公表日】平成28年2月12日(2016.2.12)
【年通号数】公開・登録公報2016-010
【出願番号】特願2015-553993(P2015-553993)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/08

【手続補正書】
【提出日】平成28年8月16日(2016.8.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
筋肉壁欠損の修復及び補強のための医療用デバイスであって、
（ａ）周辺外縁部を備える材料の第１の層と、前記第１の層と並列の材料の第２の層であって、前記層の間にポケットを提供するために前記周辺外縁部で前記第１の層に接続された第２の層と、を有し、前記材料の層のうちの１つが、前記第１と第２の層の間の前記ポケットにアクセスできるようにするための開口部を含む、生物学的に適合する埋め込み可能プロテーゼと、
（ｂ）前記プロテーゼを修復部位に送達するための送達デバイスであって、前記送達デバイスは、取り外し可能片が前記開口部を通り抜けられるようにする折り畳まれた構成を採用するのに十分な柔軟性を有する材料から作成された支持片と、前記支持片が前記プロテーゼの前記第１と第２の層の間の前記ポケット内に配置された安定した自己支持型構成と、を有し、前記送達デバイスは、力を伝達し、前記支持片を前記折り畳まれた構成に移動させ、前記埋め込み可能プロテーゼが前記筋肉欠損に対して位置決めされた後に前記埋め込み可能プロテーゼからの前記支持片の除去を容易にするために、前記支持片に接続されたハンドルを更に備える、送達デバイスと、
の組み合わせを備える、医療用デバイス。
【請求項２】
前記ハンドルが、自己支持型であり、前記欠損に対して前記プロテーゼを位置決めするために前記支持片を操作するのに十分な剛性を有する、請求項１に記載のデバイス。
【請求項３】
前記ポケットが、前記第２の層を前記筋肉壁に固定するために、前記第２の層を介したリテーナの挿入を可能にするように寸法が決められる、請求項１に記載のデバイス。
【請求項４】
前記埋め込み可能プロテーゼの前記第２の層が、中央に配置された穴を有する環帯として形成される、請求項３に記載のデバイス。
【請求項５】
前記材料の第２の層内の前記開口部が、前記第２の層の少なくとも一部を横切って延在するスリットである、請求項３に記載のデバイス。
【請求項６】

前記層が、前記外側周辺縁部の周囲の縫い目によって接続される、請求項１に記載のデバイス。
【請求項７】
前記第１の層及び第２の層が、前記第１の層及び前記第２の層を接続するために前記周辺縁部に折り畳みを伴う共通材料から形成される、請求項１に記載のデバイス。
【請求項８】
前記第１の層及び第２の層が、一体に形成される、請求項１に記載のデバイス。
【請求項９】
前記層のうちの１つの少なくとも一部の外面が、組織との癒着の前記形成及び／又は組織内部への成長の影響を受けやすい材料から形成される、請求項１に記載のデバイス。
【請求項１０】
自由物体状態の前記支持片が、前記支持片の実質的な部分の上に連続面を有する、請求項１に記載のデバイス。
【請求項１１】
前記支持片が、前記支持部材の変形を容易にするために脆弱なゾーンを有する、請求項１に記載のデバイス。
【請求項１２】
前記脆弱なゾーンが、前記外周部の周囲に切れ目を含む、請求項１１に記載のデバイス。
【請求項１３】
前記切れ目が、放射状スリットである、請求項１２に記載のデバイス。
【請求項１４】
前記脆弱なゾーンが、前記支持片の少なくとも１つの部分を前記支持片の少なくとも１つの他の部分に重ね合わせることが可能である、請求項１１に記載のデバイス。
【請求項１５】
前記支持片が、外側周辺縁部及び前記外側周辺縁部内の内部領域からなり、前記ハンドルが、前記内部領域から延在する、請求項１に記載のデバイス。
【請求項１６】
前記ハンドルが、柔軟である、請求項１５に記載のデバイス。
【請求項１７】
前記ハンドルが、前記埋め込み可能プロテーゼ及び支持片が前記欠損の下に位置決めされる場合、前記組織又は筋肉壁欠損を通って延在するように寸法が決められる、請求項１に記載のデバイス。
【請求項１８】
ハンドルが、前記支持片内の切れ目とは直径方向反対側の位置で前記支持片に取り付けられる、請求項１に記載のデバイス。
【請求項１９】
前記プロテーゼが、前記支持片をその折り畳まれた形で維持するためのリテーナを含む、請求項１に記載のデバイス。
【請求項２０】
埋め込み可能プロテーゼを修復部位に送達するための送達デバイスであって、
前記送達デバイスは、プロテーゼのポケット内に収まる寸法に決められた支持片であって、支持片が欠損を通り抜けられるようにする折り曲げられた構成を採用するのに十分な柔軟性を有する材料から作成された、支持片を備え、プロテーゼを所定の位置に維持するための安定した自己支持型構成と、前記支持片の操作を容易にするために前記支持片に固定されたハンドルと、を有する、送達デバイス。
【請求項２１】
前記支持片が、その周辺の実質的な部分の周囲に反対向きの連続面を有する、請求項２０に記載のデバイス。
【請求項２２】

前記支持片が、反対側の平坦面を有する、請求項２０に記載のデバイス。
【請求項２３】
前記支持片が、前記支持片の変形を容易にするための脆弱なゾーンを含む、請求項２０に記載のデバイス。
【請求項２４】
前記脆弱なゾーンが、前記支持の隣接部分を重ね合わせられるようにするための前記表面内の切れ目である、請求項２３に記載のデバイス。
【請求項２５】
前記切れ目が、放射状スリットである、請求項２４に記載のデバイス。
【請求項２６】
前記支持片が、少なくとも部分的に生物学的に適合する金属材料からなる、請求項２０に記載の送達デバイス。
【請求項２７】
前記支持片が、外側周辺縁部及び前記外側周辺縁部内の内部領域を有する平面物体からなり、前記ハンドルが前記内部領域から延在する、請求項２０に記載の送達デバイス。
【請求項２８】
前記ハンドルが、柔軟性ロープからなる、請求項２７に記載の送達デバイス。
【請求項２９】
前記ハンドルが、自己支持型であり、前記埋め込み可能プロテーゼ及び取り外し可能片が前記欠損に対して深く位置決めされた場合、前記組織又は筋肉壁欠損を通して延在するように寸法が決められる、請求項２０に記載の送達デバイス。
【請求項３０】
ハンドルが、前記支持片内のスリットとは直径方向反対側の位置で前記支持片に取り付けられる、請求項２０に記載の送達デバイス。